

## 「柔道と土木技術者」



NPO法人 建設技術監査センター 代表理事 **五艘 章**  
 土木学会フェロー、特別上級技術者、技術士(建設)  
 元・武蔵工大柔道部主将・OB会会長(柔道5段)

リオオリンピックの日本選手の活躍は国民、特に少年達に大きな感動と夢を与えてくれた。活躍した選手には幼年期に両親の熱い愛情と親元を離れ、国内外のスポーツアカデミーに留学し良き指導者とライバルに巡り合った事が共通している。柔道復活の背景には、オリンピック直前に見つかった昭和39年東京オリンピックで「打倒ヘーシンク」に燃えた指導者の執念・魂が込められた日記がある。井上康生監督以下の全選手は之に刺激を受け、柔道完全復活を成遂げる。

ここに昭和15年の東京オリンピック誘致(戦争で中止)を実現した柔道の創始者・嘉納治五郎を紹介したい。嘉納の努力が実り現在200以上の国・地域が国際柔道連盟に加盟している。嘉納は教え子に「**柔道以外の分野で活躍する事**」を望み、以下の言葉を遺している。

1. 勝つにしても道に順って勝ち、負けるにしても道に順って負けなければならぬ。  
負けても道に順って負ければ、道に背いて勝ったより価値がある
2. 自他共栄(じた きょうえい)
3. 力必達(つとむれば かならず たつする)
4. 教育之事天下莫偉焉 一人徳教広加万人 一世化育遠及百世  
(世の中に教育ほど尊いものはない、一人の徳の教えは、広く万人に影響し、一代の教えが百代後の世まで及ぼす)

私事で恐縮ですが、私が土木技術者を目指した背景を説明したい。私の父は私の5歳の誕生日(昭和23年2月3日)に「先ず体を鍛えよ」の遺言を遺して極寒の樺太の気屯捕虜収容所で死去(享年33歳)した。祖父母・母の愛情の下、少年時代は故郷・富山の山河に遊び、柔剣道正課の富山高校に進む。柔道部と町道場の強者達と稽古の後、帰宅し食事の後はそのままダウンの3年間を過ごした。インターハイ予選に敗退するも、北信越高等学校柔道大会に選抜される。顧問は「優勝した新潟・明訓高校との延長戦、五艘2段が中林3段を大車で3本投げても審判が認めず、脇投げを返されて敗北。審判の不手際で負ける。富山高校は全国のトップレベルである。」と校史に記録を遺す。校長と顧問は「五艘は4年後の東京オリンピックに行ける。大学から勧誘が来ている。全校上げて応援する」と熱心な説得を受ける。もし之を受入れていればオリンピックに歴史をのこしたかもしれないと淡い夢を見ることも・・・。当時、富山県は黒四と有峰のダム建設工事の最盛期であり、新聞には連日「ハンニバル作戦でブルドーザーの立山越」、「大町トンネル・破砕帯突破」等の記事が紙面に踊る。新島譲の「後世への最大遺物」に刺激を受け、土木技術者と柔道の選択に悩む。兄に相談すると「**柔道は現役時代の戦績が全てである。純粋な人生を送るには土木技術者が良い**」と。これが土木を選んだ最大の理由である。

武蔵工業大学土木工学科を卒業後、前田建設に奉職して33年間、人命、利益、工期、信用の全責任を担い様々な土木工事を担当する。建設省北千葉第一機場建設工事で昭和59年度労働大臣優良賞を授賞し、東京湾横断道路の建設に関わった事が誇りである。退職後はNPO法人建設技術監査センターを創設し若い土木技術者の教育と工事監査等の公益貢献に携わっている。柔道を勧めた亡き兄(享年62歳、中学校長、武道25段)の心の指導に深く感謝している。

CNCPには「**青少年が土木に憧れる優れた教育活動を展開する事**」を心から願っている。